

産地の概要

<対象地域> 久米島町

<対象品目> さとうきび

<産地の現状・課題>

- さとうきび栽培において、最も重労働である収穫作業の負担を軽減し、産地規模を維持するためハーベスターの導入を進めているが、圃場が平地から山手まで大小様々なに点在しており、ハーベスターの圃場圏内外の移動が作業効率を下げている。

- 畑の状況やオペレーターの技術により、ハーベスターの稼働率に差が生じている。

- 小規模な圃場では手刈りでの収穫作業が多く、今後人手不足が進む中、生産面積の減少が危ぶまれている。

検討体制

久米島さとうきび振興協議会

構成員	役割
生産者 (沖縄県さとうきび生産法人連絡協議会支部長)	さとうきびの生産、収穫
農業協同組合 (沖縄県農業協同組合久米島支店)	さとうきび収穫に関する助言、検証、検討会への参加
民間企業(久米島製糖株式会社)	協議会運営(調整会議、説明会)、検討会への参加
市町村(久米島町産業振興課)	さとうきび収穫に関する助言、検証、検討会への参加
都道府県(沖縄県南部農業改良普及センター)	さとうきび収穫に関する助言、検証、検討会への参加



GPS装着ハーベスターの様子



GPS装置からの情報(スマートフォン画面)

新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

ハーベスターに設置したGPS装置から得られるデータを定量化・可視化し、現状を適格に把握し、課題を明確にする。また、GPS装置の活用により、収穫作業の省力化及び効率化を図り、農業者の高齢化に対応したさとうきび産地の生産基盤の維持・拡大を目指す。

現在の
営農技
術体系

新たな
営農技
術体系

30台の
ハーベスター
が稼働

ハーベスターにGPS装
置を設置し、収穫作
業におけるデータを
定量化・可視化、検証

平地から山手に点在する、
大小様々な形をした圃場間
の移動を繰り返して作業

GPSデータを活用し、
収穫作業の省力化・
効率化を図る

効率的な圃場間の移動
や、圃場内の作業経路が
不明確なため、作業時間
を余計に要し、町全体の
機械収穫率も低下

機械収穫率を向上させ、
高齢化に対応した産地の
生産基盤に維持・拡大を
目指す

<新たな営農技術体系の効果等>

- GPSデータを検証し、現状は作業効率が悪いことが改めてわかったので、ハーベスターごとの適正な移動距離、担当圃場の適正な区分、作業効率の良い圃場とハーベスター機種の組合せに関するデータを整理・可視化し、オペレーター技能や機械収穫率の向上を図る。
- 機械収穫率（面積） 57.7% (R1/2年期) → 63.8% (R2/3年期) 6.1 %UP

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

取組主体	R3	R4
久米島さとうきび振興協議会 (事務局:久米島製糖株式会社)	調整会議、検討会等の開催、GPS設置、周知活動	
普及センター	技術指導・導入推進	
久米島町・JA	技術指導・導入推進	

【(参考)農林水産省HP 令和2年度次世代につなぐ営農体系確立支援事業取組概要】
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/jisidai_seiryaku-38.pdf